

第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

これも今は昔、比叡ひえいの山やまに兎うありけり。僧そうたち、宵よひのつれづれに、「いざ、かいもちひせん」と言ひけるを、この兎、心よせに聞きけり。さりとて、しいださんを待ちて寝ねざらんもわるかりなと思おもひて、かたがたに寄りて、寝たるよしにて、いでくるを待ちけるに、すでにしいだしたるさまにて、ひしめきあひたり。

この兎、定めておどろかさんずらんと、待ちゐたるに、僧の、「もの申しさぶらはん。おどろかせたまへ」と言ふを、うれしと思へども、ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひと声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりぞ。幼き人は寝入りたまひにけり」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食②ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期むじの後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふことかぎりなし。

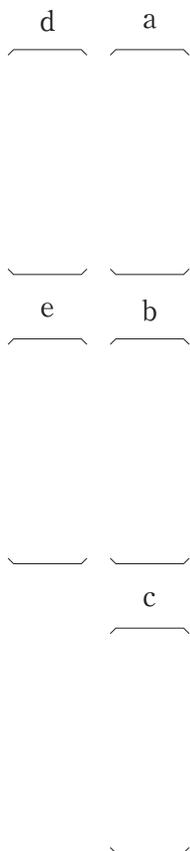
〔現代語訳〕

これも今では昔のこと、比叡山の寺に一人の兎がいた。僧たちが、宵の暇ひまにまかせて、「さあ、ぼたもちを作ろう」と言ったのを、この兎は、心に期待して聞いていた。そうはいっても、できあがるのを待つて寝ないでいるのも具合が悪いだろうと思つて、(部屋の)片すみに寄つて、寝ているふりをして、できあがるのを待つていたところ、もうできあがった様子で、ひしめき合つてさわいでいる。

この兎は、きつと起こそうとするだろうと、待つていたところ、僧が、

「A」と言うのを、うれしいとは思つたが、たった一度(呼ばれた)だけで返事をするのも、待つていたのかと思うかもしれないと思つて、もう一度呼ばれてから返事をしようと、がまんをして寝ているふりをして、いるうちに、「B」。幼い人は寝入つておしまいになった」と言う声が出たので、ああ、困つたと思つて、もう一度起こしてくれよ、と思ひながら寝たふりをして聞いていると、むしゃむしゃと、しきりに食べる音がしたので、どうにもがまんができなくなつて、かなり時間がたつてから、「はい」と返事をしたので、僧たちはとめどもなく笑つた。

問一 線a、eの主語はだれ(何)ですか。古文中からそれぞれ書き抜きなさい。



問二 現代語訳の中のA・Bにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A
- ア 何か言つて、おどろかせてください
 - イ おや、何か言つたようだ、大声を出しておどろかせてやろう
 - ウ もしもし、目をさましてくださいませ
 - エ 寝てばかりいるのはけしからんことだ、きつくし

練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

さて物語は、もののはれを知るを、むねとはしたるに、そのすぢに
 いたりては、儒^{じゆふつ}の教へにはそむける事もおほきぞかし。そはまづ人の
 情^{こころ}、物に感ずる事には、善^{ぜん}悪^{あく}邪^{じや}正^{せい}さまさまある中に、ことわりにたが
 へる事には、感^{かん}ずまじきわざなれども、情は、我ながらわが心にもまか
 せぬことありて、おのづからしのびがたきふし有りて、感ずることある
 ものなり。

(本居宣長 『源氏物語玉の小櫛』)

〔現代語訳〕

さて、物語というものは、もののはれを知ること、主要な事から
 とはしているのであるが、そのあらずじというになると、儒教や仏
 教の教えに A ことも多いものであるよ。そのわけは、まず人間の心
 が、(何かの)物事に感じる場合には、善悪邪正いろいろある中で、道理
 に反することには、感動するはずはないわけであるが、心というものは、
 B ところがあつて、(どうかすると)自分でも抑えがたいものがあつ
 て、(道にそむくことにも)感動することがあるものだからである。

問一 線 a c をそれぞれ現代かなづかいに直して書きなさい。

a
 b

問二 線①「物語」において、大切にされているのはどんなことだ
 と述べていますか。現代語訳中から十一字で書き抜きなさい。

c

問三 線②「むね」とは何ですか。現代語訳中から六字で書き抜き
 なさい。

問四 線③「すぢ」とは何ですか。現代語訳中から書き抜きなさい。

問五 線④「そむける」の現代語訳が A にあてはまります。最
 も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 反する
- イ 導かれる
- ウ 賛同する
- エ 見習う

問六 線⑤「ぞかし」に込められている筆者の心情を述べたものと
 して最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア それほど重要ではないことを読者に示そうとしている。

イ とても意外だということを読者に示そうとしている。

ウ どうすればよいかと読者に問いかけている。

エ 特に強調して読者に示そうとしている。

問七 ——— 線⑥ 「そは」の「そ」の指している内容を現代語で書きなさい。

問八 ——— 線⑦ 「感ずまじきわざなれ」とありますが、どんなことに感動するはずはないというのですか。現代語訳中から八字で書きなさい。

問九 ——— 線⑧ 「我ながらわが心にもまかせぬ」の現代語訳が B にあてはまります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 何でも自分の思いのままになる

イ 自分でも自分の思うとおりにいかない

ウ 自分の思うとおりになるはずがない

エ 自分の思うとおりになりそうだ

問十 ——— 線⑨ 「おのづからしのびがたきふし有りて」とありますが、

どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 理屈だけでは割り切れない、どうしようもない気持ちがあると

いうこと

イ どんな人にも、つつみかくしておきたいことがあるものだという

うこと

ウ どんなことであっても、道理に反するものには感動しないという

エ どんな気持ちであっても、理屈による説明が可能であるということ

問十一 ——— 線⑩ 「道理」は、古文ではどう表されていますか。古文中から四字で書きなさい。

問十二 この文章の要旨として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人間には道理に反することを好む傾向があるので、そうした傾向を正すためにも、儒仏の教えにもとづいた物語を読まなければならない。

イ 物語のあらすじが儒仏の教えに反することがないように、物語の作者は儒仏の教えについてふだんから学習しておくことが大切である。

ウ 物語に儒仏の教えに反する面が多いのは、道理に反することだとわかっていても、人間の心は感動することがあるからである。

エ 物にふれて起こる感動を抑制するものが、人間の理性や意志というものであり、物語にもそれを主題にした作品が多く見受けられる。

--